

基礎疾患を持つ方に対するプレコンセプションケアの情報提供の充実のための研究

研究分担者 大田 えりか 聖路加国際大学 教授

研究要旨

本研究は、糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病の4疾患の女性を対象に行った質的調査である。

〔目的〕 糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病の4疾患の女性が医療機関等から受けている妊娠・出産・子育てに関する情報を把握し、患者の情報ニーズを明らかにすることである。

〔方法・結果〕 9名の基礎疾患をもつ女性で、妊娠中または産後の女性に対して、インタビューガイドを用いてオンラインでフォーカスグループインタビュー、または個人インタビューを行った。20代から40代の女性で、産休・育休中を含め、ほとんどの対象者が働きながら妊娠、育児をしている状況であった。インタビュー結果として、どの疾患も妊娠のタイミングや妊娠を見据えた治療方針について、妊娠前に説明を受けていた。疾患を抱えながら妊娠することの児への影響や治療薬の児及び母乳への影響について不安だという意見が挙げられた。医療機関から提供してほしい情報については、児の予後についての意見が多く聞かれたが、不安を煽る情報よりも安心してできる情報を提供してほしいという意見もあった。提供方法については、紙媒体を好む対象者がいる一方で、音声や動画を好む対象者もいた。

〔結論〕 医療機関から提供してほしい情報では、児の予後に関する意見が多く聞かれた。提供方法としては、1つの媒体での提供よりも患者が選択できるような複数の媒体での提供が必要とされている。

研究協力者

西村悦子 駒沢女子大学 助教

矢込香織 聖路加国際大学 修士課程

A. 研究目的

糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病の4疾患の女性が医療機関等から受けている妊娠・出産・子育てに関する情報を把握し、患者の情報ニーズを明らかにすること

B. 研究方法

1. 研究対象者

糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病のいずれかの診断を受けて治療中の者で、妊娠中または産後2～3年の女性とした。

2. 対象者のリクルート方法

本研究の研究協力機関を通して研究対象者をリクルートした。

3. データ収集方法と項目

(1) アンケート

フォーカスグループインタビュー実施日より前にオンラインでアンケートを行い、対象者の基本属性に関する情報（年齢、疾患、居住地、就労状況、妊娠・出産歴、治療法等）を収集した。

(2) フォーカスグループインタビュー及び個人インタビュー

参加意思を示した研究対象者に対し、下記のインタビューガイドを用いて、オンラインでフォーカスグループインタビュー、または個人インタビューを実施した。インタビューは2024年2月に実施した。

<インタビューガイド>

- ① 今までに医療機関から受けた妊娠・出産・子育てに関する情報の中で、疾患をもった女性に対する情報について教えてください。（妊娠、出産、子育てに分けて質問する）
- ② 情報を受けたタイミングは適切だと感じましたか。（妊娠、出産、子育てに分けて質問する）
- ③ 疾患を抱えながら、妊娠してもよいかどうか、妊娠できるかどうか、不安だったことはありませんか？
- ④ 疾患をもって妊娠したことで不安だったことは何ですか？（妊娠期、出産、産後に分けて質問する）
- ⑤ 疾患をもって妊娠したことで困ったことは何ですか？（妊娠期、出産、産後に分けて質問する）
- ⑥ 医療機関以外で得た妊娠・出産・子育てに関する情報について教えてください。（媒体と情報の内容について、妊娠、出産、子育てに分けて質問する）
- ⑦ 病気を抱えながら妊娠・出産・子育てする中で、特に役に立った情報などのようなものですか。（妊娠、出産、子育てに分けて質問する）
- ⑧ 医療機関から提供してほしい情報はどのような情報ですか。（妊娠、出産、子育てに分けて質問する）
- ⑨ どのような方法で提供してほしいですか？
- ⑩ 妊娠・出産に関する30分のカウンセリングを受けられるとしたら、自己負担でどれくらいの金額までなら払っても良いと考えますか？（例：1000円、3000円、5000円等）

4. 分析方法

インタビューの内容は、録音した内容から逐語録を作成した。逐語録に対して、コード化し、サブカテゴリーを命名した。類似するサブカテゴリーに対してカテゴリー化した。カテゴリー化が困難な意見に

については、項目ごとに意見を分類した。

5. 倫理的配慮

聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て行った（承認番号：23-A033）。研究対象者に対し、同意の撤回の自由や研究内容について十分に説明し、本研究への参加について研究対象者本人の自由意思による同意を得た。

C. 研究結果

1. 対象者の属性

対象者は全員が妊娠中、または産後の基礎疾患を持った女性で、糖尿病の方が4名、高血圧の方が3名、リウマチ・膠原病の方が1名、甲状腺疾患の方が1名の合計9名であった（表1）。調査日程の都合上、2名ずつのグループとし、4グループに分けた。調査日の調整がつかず、1名が個人インタビューとなった。各グループの参加者は、1グループが糖尿病の方2名、2グループは甲状腺疾患と高血圧の方1名ずつ、3グループは糖尿病の方2名、4グループは高血圧の方2名で構成された。

表1. 対象者の基本属性

ID	疾患	年齢	就労状況	出産回数
A	糖尿病	30代	常勤	2
B	糖尿病	40代	常勤	2
C	甲状腺疾患	30代	常勤	1
D	高血圧症	40代	常勤	1
E	リウマチ・ 膠原病	20代	産休・育休中	1
F	糖尿病	40代	非常勤・パー トタイム・ア ルバイト	3
G	糖尿病	40代	常勤	0
H	高血圧症	30代	専業主婦	1
I	高血圧症	30代	非常勤・パー トタイム・ア ルバイト	0

2. フォーカスグループインタビューの結果

インタビューガイドの質問内容をもとに、フォーカスグループインタビューで得られた結果を①妊娠に関する医療機関からの情報、②出産に関する医療機関からの情報、③産後に関する医療機関からの情報、④医療機関から情報を受けたタイミング、⑤妊娠前の不安、⑥妊娠中の不安、⑦妊娠中の不安が軽減した要因、⑧産後の不安、⑨疾患を持って妊娠したことで困ったこと、⑩医療機関以外から得た疾患に関連する情報の媒体、⑪役に立った医療機関からの情報（妊娠中）、⑫役に立った医療機関からの情報（産後）、⑬医療機関から提供してほしい情報、⑭医療機関から提供してほしい情報の提供方法、⑮30分のカウンセリングの値段、⑯経済的負担の16の項目に分類した。

④医療機関から情報を受けたタイミング、⑩医療機関以外から得た疾患に関連する情報の入手方法、⑬医療機関から提供してほしい情報、⑭医療機関から提供してほしい情報の提供方法、⑮30分のカウンセリングの値段、⑯経済的負担については、カテゴリ化せずに意見を分類し表を作成した。

以下、カテゴリーを〈 〉、サブカテゴリーを【 】で表す。

- ① 妊娠に関する医療機関からの情報（別添資料：表1）
妊娠に関する医療機関の情報として、〈治療方針〉、〈疾患の状態と妊娠のタイミング〉、〈疾患による胎児への影響〉、〈疾患と妊娠〉、〈医療機関の選択〉、〈疾患と栄養〉、〈同じ疾患の患者情報と症例数〉、〈胎児の検査〉の8つのカテゴリーが抽出された。
- ② 出産に関する医療機関からの情報（別添資料：表2）
〈出産方法〉に関しては、当時の状況を振り返り【計画分娩に関する説明不足】を感じていたと指摘する声もあるが、【疾患の胎児への影響を考慮した出産方法】について事前に説明があったという意見もあった。
- ③ 産後に関する医療機関からの情報（別添資料：表3）
産後に関しては、〈疾患の母乳への影響〉、〈薬の母乳への影響〉、〈疾患の児への影響〉、〈食事〉について情報が提供された。
- ④ 医療機関から情報を受けたタイミング（別添資料：表4）
研究対象者が疾患を持って妊娠をする（した）中で、医療機関から受けた情報について、タイミングの適切さを問う質問では、多くの対象者が適切だと感じていた一方で、出産方法に関する情報提供のタイミングが適切であって欲しかったという意見が聞かれた。
- ⑤ 妊娠前の不安（別添資料：表5）
妊娠前は、疾患を抱えていることによる〈妊娠の可能性〉、〈子どもへの影響〉について不安を感じていた。
- ⑥ 妊娠中の不安（別添資料：表6）
妊娠中は、〈疾患についての重大性を認識した時の不安〉や疾患の〈子どもへの影響〉、〈疾患の状態が不安定〉なこと、〈疾患を抱えながらの妊娠〉による不安が挙げられた。また、【相談する人がいないことによる漠然とした不安】を感じたという意見もあった。
- ⑦ 妊娠中の不安が軽減した要因（別添資料：表7）
妊娠中の不安については、【あらゆるリスクに対する検査の実施】、【不安を伝えた時に母性内科の専門医による明確で十分な情報】などにより不安が軽減したという意見があった。また、〈疾患の状態が安定〉したことも不安の軽減につながっていた。
- ⑧ 産後の不安（別添資料：表8）
産後については、〈母乳や授乳方法への影響〉、〈自分の体調〉、〈子どもへの影響〉についての不安が挙げられた。

- ⑨ 疾患を持って妊娠したことで困ったこと（別添資料：表9）
疾患を抱えながら妊娠したことで、〈疾患の状態と妊娠のタイミング〉、〈仕事をしながらの妊娠〉、〈リスクがある中での出産〉、〈疾患についての情報へのアクセス〉、〈服薬や血糖値の管理〉、〈産後の症状〉に大変さや難しさを感じていた。
- ⑩ 医療機関以外から得た疾患に関連する情報の入手方法（別添資料：表10）
インターネット検索を行ったと回答する人が多く、病院のWEBサイト、同じ疾患を持った人のブログなどで情報を得ていた。
- ⑪ 役に立った医療機関からの情報（妊娠中）（別添資料：表11）
食事管理や先の見通しができる〈役に立つ冊子〉や〈同じ疾患を持つ妊婦の妊娠・出産関連情報〉、〈実践につなげやすい栄養情報〉などの意見が語られた。
- ⑫ 役に立った医療機関からの情報（産後）（別添資料：表12）
〈授乳に関する情報〉として、【クッションを置くことで手を使わないでできる授乳方法】や【混合栄養や授乳に関するアドバイス】が役立つとしている。また、【小児科医による児の成長を見通した説明】も産後に得た情報として役立つとしている。
- ⑬ 医療機関から提供してほしい情報（別添資料：表13）
糖尿病の方からは、妊娠中の高血糖に関する説明を受けたが、低血糖になったことが多く、低血糖が胎児に与える影響について知りたかったという意見や安心できる具体的な内容、論文のような詳細な情報や症例数などについて知りたいという意見が聞かれた。
- ⑭ 医療機関から提供してほしい情報の提供方法（別添資料：表14）
同じ疾患の患者とのグループ健診や診察時の説明に加えて紙媒体の配布、動画などの意見が挙げられた。
- ⑮ 30分のカウンセリングの値段（別添資料：表15）
研究対象者が受けたいカウンセリング内容であれば、値段は1000円から5000円という意見が出た。提供方法については、診察の中でカウンセリングを実施してほしいという意見や同じ疾患を持つ人を集めたグループカウンセリングなら利用してみたいという意見が挙げられた。
- ⑯ 経済的負担（別添資料：表16）
経済的負担については、実際に支払う診察代や薬代に負担を感じているという意見が多く聞かれた。また、通院するために仕事を休むこと

で収入の減るという意見もあった。

D. 考察

糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病の4疾患を持つ女性を対象にしたフォーカスグループインタビューでは、実際に対象者が妊娠前から産後に医療機関から受けた情報や説明のタイミングの適切さ、妊娠前、妊娠後から産後に抱えていた不安などについて確認することができた。本人の経験を踏まえ、役に立った情報やどのような情報を必要としているかについても明らかになった。

どの疾患も妊娠のタイミングや妊娠を見据えた治療方針について、妊娠前に説明を受けていた。先行文献でも、疾患の状態や使用している治療薬が胎児の予後に影響するため非計画妊娠を避けるための定期的な情報提供やプロコンセプションケアが重要であるとされている^{1),2)}。

また、妊娠中や授乳中の薬の使用は、患者にとって不安を抱くことが多く、十分な説明が必要とされている²⁾。実際にインタビュー調査でも、疾患を抱えながら妊娠することの児への影響や治療薬の児及び母乳への影響について不安だという意見が挙げられた。それに対し、不安を軽減させた要因として、専門性の高い医療機関での検査や医師による十分な説明という意見が挙げられており、検査による異常の有無の確認や十分な説明の重要性が確認された。また、説明の内容だけでなく、説明をするタイミングの適切さも患者を安心させる要素であることが分かる結果となった。

どのような情報を医療機関から提供してほしいかという質問では、児の予後についての意見が多く聞かれたが、不安を煽る情報よりも安心できる情報を提供してほしいという意見もあった。提供方法については、紙媒体を好む対象者もいれば、音声や動画を好む対象者もあり、1つの媒体での提供よりも患者が選択できるよう複数の媒体での提供が望まれている。

E. 結論

糖尿病、高血圧、甲状腺疾患、リウマチ・膠原病の4疾患を持つ女性を対象にしたフォーカスグループインタビューでは、実際に対象者が医療機関から受けた情報や抱えていた不安などについて確認することができた。医療機関から提供してほしい情報では、児の予後に関する意見が多く聞かれた。提供方法としては、1つの媒体での提供よりも患者が選択できるよう複数の媒体での提供が必要とされている。

F. 研究発表

1. 論文発表
なし
2. 学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし

引用文献

- 1) 川村智行. (2021). 小児期発症糖尿病患者の妊娠と出産. 日本周産期・新生児医学会雑誌, 56(4), 620-622.
- 2) 磯島咲子. (2023). 妊娠・授乳期の関節リウマチの診療—女性のライフイベントと治療の両立—. 昭和学会雑誌, 83(3), 198-203.

別添資料

表 1. 妊娠に関する医療機関からの情報

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
治療方針	妊娠を見据えた治療方針への変更について	E	●
	妊娠前に妊娠を見据えた治療方針の変更	A	●
	妊娠による治療方針の変更	F	●
	産後に切り替わる治療方針	F	●
	産後の状況を見据えた治療方針の変更	A	●
疾患の状態と妊娠のタイミング	血糖値のコントロールと不妊治療開始の時期について	B	●
	疾患の状態を良くしてから臨む不妊治療	I	●
	妊娠できる可能性と理想のタイミング	F	●
	妊娠希望の確認と疾患を持ちながらの妊娠の説明	A	●
	ホルモン値と流産の関係、ホルモン値の変化	C	●
疾患による胎児への影響	高血圧が妊娠に与える影響	I	●
	胎児の状況	F	●
	血糖コントロールの胎児への影響	G	●
	血糖コントロールの重要性と胎児への影響	B	●
	血糖コントロールと胎児への影響	F	●
疾患と妊娠	血糖値コントロールの重要性と胎児への影響	A	●
	血圧管理の冊子をもらった	D	●
	高血圧と妊娠についての冊子	H	●
	糖尿病と妊娠について	B	●
	妊娠糖尿病のリーフレット	G	●
	妊娠糖尿病の症状と注意事項のリーフレット	F	●
医療機関の選択	糖尿病の妊娠への影響とリスク	B	●
	甲状腺のホルモンが上がった時の自覚症状や症状が出た時は自分で受診する、甲状腺機能管理目標値や、食事によるホルモン値の影響	C	●
	専門性の高い医療機関での妊娠期のフォローと出産	E	●
	食事のヨード量とホルモン値の変化	C	●
	食材と栄養素、糖質の種類	F	●
疾患と栄養	カーボカウントの方法	F	●
	食品に含まれるヨード量	C	●
	実際の食事と血糖値	F	●
同じ疾患の患者情報と症例数	同じ疾患で出産した妊婦の情報	B	●
	同じ治療法の妊婦の成功体験の紹介、症例数	H	●
胎児の検査	妊娠 16 週の不整脈と精密胎児超音波検査	E	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 2. 出産に関する医療機関からの情報

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
出産方法	計画分娩に関する説明不足	B	●
	疾患の胎児への影響を考慮した出産方法	A	●

疾患：●糖尿病

表 3. 産後に関する医療機関からの情報

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
疾患の母乳への影響	産後のホルモン値の母乳への影響	C	●
薬の母乳への影響	薬と母乳育児について	E	●
	薬による母乳への影響	C	●
疾患の児への影響	子どものワクチン接種と日光過敏について	E	●
食事	食事の制限は不要	A	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●リウマチ

表 4. 医療機関から情報を受けたタイミング

時期	適切さについて	発言者	疾患
妊娠前の説明	結婚を考えるタイミングで妊娠についての説明をされた（適切）	E	●
	妊娠を考え始める数年前に妊娠についての説明をされた（適切）	A	●
	妊娠前に妊娠についての説明をされた（適切）	D	●
妊娠中の説明	説明を受けたタイミングは流れる的にベスト	I	●
	血圧が少し高いタイミングで説明を受けたので有難かった	H	●
	妊娠中に医療機関から情報を受けたタイミングは適切	F	●
	妊娠中に医療機関から情報を受けたタイミングは適切	G	●
	不安で相談していたタイミングで冊子をもらったので有難いタイミング	C	●
	定期的な診察時の説明のタイミングは良かった	D	●
	情報がなくて不安になることはなかったため説明を受けたタイミングは適切	A	●
	妊娠の経過によるホルモン値の変化について妊娠初期に教えてもらい心の準備ができた	C	●
	帝王切開の可能性は妊娠期間の初めの頃に聞き、33週目に帝王切開に決まった	G	●
出産方法に関する情報提供が適切だったら良かった	B	●	
薬と母乳の説明は妊娠後期、産後直ぐ、一か月健診時にもありタイミングは適切	E	●	

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 5. 妊娠前の不安

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
妊娠の可能性	妊娠できるかどうかの不安	C	●
	自分の年齢や疾患によって妊娠し辛いのではという不安	G	●
子どもへの影響	疾患を抱えながら妊娠することの子どもへの影響が心配	G	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患

表 6. 妊娠中の不安

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患	
子どもへの影響	疾患による児へのリスクを不安	B	●	
	疾患による児へのリスクを不安	G	●	
	疾患による児へのリスクを不安	E	●	
	疾患による児へのリスクを不安	F	●	
	高血圧の児への影響にも不安	D	●	
	薬を飲むことで児へのリスクを心配	D	●	
	疾患による児へのリスクを不安	A	●	
	出生後児の成長に伴い同じ病気になるのではという不安	F	●	
	疾患についての重大性を認識した時の不安	高血圧と診断された時に感じた大きな不安	I	●
		血圧が高いことが大変な事だと認識した時の不安	H	●
疾患の状態が不安定	血圧の値が安定せず不安	D	●	
疾患を抱えながらの妊娠	疾患を持ちながら妊娠することの精神的辛さ	G	●	
	血圧が上がるかもしれない不安。初産なのでどうなるかわからない不安	I	●	
	検査値が不安定な時期があり、それがどれくらい妊娠に影響するか不安	C	●	
	高血圧で出産することで自分の身体への影響に不安。	D	●	
相談相手の存在	相談する人がいないことによる漠然とした不安	H	●	

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 7. 妊娠中の不安が軽減した要因

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
専門性の高い医療機関での検査や医師による説明	あらゆるリスクに対する検査の実施	I	●
	不安を伝えた時に母性内科の専門医による明確で十分な情報	I	●
	母性内科での通院	H	●
疾患の状態が安定	妊娠中、産後でも飲める薬で血圧が安定	H	●

疾患：●高血圧

表 8. 産後の不安

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
母乳や授乳方法への影響	薬の母乳への影響に不安	D	●
	検査結果次第で母乳育児かミルクが決まるためうまく授乳方法に対応できるか不安	C	●
自分の体調	母乳育児による低血糖の起こりやすさへの不安	F	●
	帝王切開後の自分の体調に不安	D	●
子どもへの影響	疾患による子どもへの影響に対して不安	F	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧

表 9. 疾患を持って妊娠したことで困ったこと

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
疾患の状態と妊娠のタイミング	疾患の状態が良い時と妊娠のタイミングを合わせるのが難しさ	F	●
	妊娠前に血圧を下げることに時間がかかって大変だったこと	I	●
仕事をしながらの妊娠	近くの病院に行けないため平日に仕事を休むこと	E	●
	仕事をしながら妊娠する辛さ	A	●
	仕事しながらの妊娠継続する大変さ	G	●
リスクがある中での出産	リスクを負って出産する大変さ	F	●
疾患についての情報へのアクセス	疾患についての情報がないことで自分で調べる大変さ	H	●
服薬や血糖値の管理	毎日薬を飲む大変さ	I	●
	常に血糖値を確認しないといけない状況	B	●
産後の症状	産後のシェーグレンの様な症状	E	●
受診回数や待ち時間	産科も内分泌科も受診するため受診回数の多さ	C	●
	複数の科を受診と長い待ち時間	D	●
	採血を診察の2時間前にしないといけなかったこと	C	●
育児中のインスリンポンプ	子ども抱っこ時のインスリンポンプの紐が児の足に絡まること	A	●
	インスリンポンプに子どもの足が引っかかって外れてしまったり、子どもがインスリンポンプをいじってロック解除されたりするため、子どもに触らないように教える大変さ	B	●
	子ども抱っこ時のインスリンポンプへの接触や取られるトラブル	F	●
	夜中のインスリンポンプのアラームにより子どもが泣くこと	A	●
インスリンポンプの設定や交換	妊娠中のインスリンポンプの設定を小まめに変えなければいけない状況	B	●
	育児と仕事で忙しい時の、旦那の出張によるワンオペで自分のインスリンポンプの交換を忘れること	A	●
	外食時の血糖コントロールの難しさ	F	●
工作中的食事管理	仕事が忙しい時の食事管理の難しさ	D	●
	疾患を抱えながらの妊娠について上司や周りの人は理解しているものの仕事の流れで生じる分食の難しさ	G	●
	工作中的分食や低血糖などで仕事で迷惑をかけてしまっていると感じる精神的辛さ	G	●
妊娠中の食事と運動	妊娠中の食事と運動の難しさ	F	●
妊娠中の食事管理	妊娠中の食事管理の難しさ	F	●
	妊娠中の食事の管理の難しさ	G	●
子育て中の食事管理	子育て中の食事管理の難しさ	B	●

	育児中の炭水化物に偏った食事	F	●
	産後の子ども優先の生活による低血糖のなりやすさ	F	●
育児中の血圧測定	血圧測定が習慣化されていなかったので忘れたり、測定時間が一定にならなかり、育児中に安静にして血圧測定する大変さ	H	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表10. 医療機関以外から得た疾患に関連する情報の入手方法

入手方法	発言者	疾患
1型糖尿病患者の会	B	●
医療機関以外の情報は探さなかった	C	●
インターネット検索、情報雑誌	I	●
インターネット検索で調べた	F	●
インターネット検索で調べた	G	●
インターネット検索で調べた	F	●
インターネットで検索すると不安が大きくなるのであまり調べないようにした	D	●
インターネットのキーワード検索	D	●
インターネットのキーワード検索の上位の記事	H	●
同じ疾患で妊娠、出産した人のブログ	B	●
同じような疾患を持った人が発信している情報	D	●
同じ疾患で妊娠、出産した人のInstagram	A	●
YouTube	G	●
疾患に関する情報サイト	E	●
親戚	I	●
他の病院のウェブサイト	G	●
友人（ママ友）	H	●
論文	E	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 1 1. 役に立った医療機関からの情報（妊娠中）

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
役に立つ冊子	心の安定につながる医師の説明と役立つ冊子の配付	C	●
	役立つ冊子「橋本病と妊娠」の食品のヨード量	C	●
	先の見通しができる冊子「橋本病と妊娠」	C	●
	疾患に重要な食事と血圧管理についての冊子の配付	D	●
適切なタイミングで行われる説明	早い時期からの出産方法の説明に安心	A	●
	良いタイミングでの薬の母乳への影響についての説明	C	●
	産後を見据えたペン型インスリンからインスリンポンプへの変更の提案	A	●
	子どもにも影響する抗 SS-A 抗体の検査	E	●
同じ疾患を持つ妊婦の妊娠・出産関連情報	同じ疾患を持つ患者の事例や症例数の紹介	H	●
	同じ疾患をもつ妊婦の出産件数や合併症の有無などの紹介	A	●
実践につなげやすい栄養情報	役立つ栄養相談での食事管理情報	D	●
	入院中に体験できた減塩食	D	●
	役立つ栄養士による食材と糖質の話	F	●
	栄養士による実際の食事内容に即した助言	F	●
	実用的なカーボカウントの説明	G	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 1 2. 役に立った医療機関からの情報 (産後)

カテゴリー	サブカテゴリー	発言者	疾患
授乳に関する情報	クッションを置くことで手を使わないでできる授乳方法	E	●
	混合栄養や授乳に関するアドバイス	C	●
小児科医の対応と説明	小児科医による児の成長の見通した説明	B	●
	小児科医の血糖値と母親の気持ちへの理解	B	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●リウマチ

表 1 3. 医療機関から提供してほしい情報

内容	発言者	疾患
低血糖が胎児に与える影響	A	●
1型糖尿病の人の出産方法、出産後の状況、児の予後	G	●
論文のように疾患に関する詳細な情報、症例数	E	●
不安を煽る情報よりも安心できる具体的な情報	H	●
産後ケアルーム	C	●
糖尿病ではない妊婦に対して妊娠糖尿病についての情報	F	●
NICU を備えた医療機関で出産する必要性	E	●
障害年金	B	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 1 4. 医療機関から提供してほしい情報の提供方法

提供方法	発言者	疾患
同じ疾患の患者とのグループ健診	G	●
診察時に口頭で説明	E	●
診察時の説明に加えて、紙媒体の配布	B	●
診察時の口頭での説明とパンフレット	A	●
パンフレット	C	●
1枚のチラシよりももっと詳しく書かれている資料	E	●
同じ疾患の人の体験談が記載されている資料	G	●
同じ疾患の人の体験談が記載されている資料やパンフレット	F	●
文字だけの紙媒体よりも音声が入る動画	H	●
文字だけでなく写真付きの冊子	G	●
診察時の口頭での説明に加えて、待ち時間を利用し院内のモニターに流す	I	●
紙媒体だけでなく、口頭で患者が安心できる声掛け	H	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 15. 30 分のカウンセリングの値段

条件	値段	発言者	疾患
自分が必要であれば	1000 円	E	●
30 分の場合	3000～5000 円	H	●
気軽に相談できるカウンセリングなら	1000～2000 円	H	●
今受けるのであれば	3000 円	I	●
診察に含めてほしい	NA	D	●
自治体のカウンセリングなら	無料	D	●
医療機関の場合は	あまり高くない程度	D	●
診察も含めたカウンセリング	1000～2000 円	C	●
自分が必要であれば	1000～5000 円	B	●
主治医からいいタイミングで説明してほしい	NA	B	●
カウンセリング不要	NA	A	●
グループカウンセリングなら利用してみたい	NA	A	●
受診時に合わせてカウンセリングを設定してほしい	安い方がよい	G	●
自分が必要であれば	3000 円	G	●
NA	3000 円	F	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ

表 16. 経済的負担

項目	発言者	疾患
インスリンポンプの医療費が高い	A	●
インスリンポンプの医療費が高い	B	●
インスリンポンプの医療費が高い	G	●
インスリンポンプの医療費が高い	F	●
薬代が高い	E	●
疾患がない人と比べると負担が大きい	D	●
診察費用が高い	C	●
母性外来は保健適応なので金銭的負担は感じない	H	●
母性外来は保健適応なので金銭的負担は感じない	I	●
有給休暇が少ないと会社を休まないといけない	A	●

疾患：●糖尿病、●甲状腺疾患、●高血圧、●リウマチ